

合併症少ない臍帯血移植

やまなし

医療最前線

《 114 》

県立中央病院から

白血病や悪性リンパ腫など血液の病気に対して行われる治療法の一つ、造血幹細胞移植。白血球の血液型とされるHLA（ヒト白血球抗原）型が一致したドナーから移植を受ける従来の方法はドナー探しが困難だったが、近年、さまざまな移植方法が可能になり、ドナー探しが飛躍的に容易になっているという。県立中央病院は、HLA型が完全に一致していなくても移植でき、移植後の合併症が少ない臍帯血移植を、成人に対して県内で唯一、実施している。

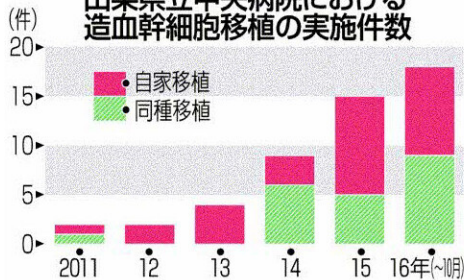
血液内科部長の飯野昌樹氏



飯野 昌樹
血液内科部長

成人には県内で唯一実施

山梨県立中央病院における造血幹細胞移植の実施件数



師によると、造血幹細胞移植には、患者自身の幹細胞を保存して使用する自家造血幹細胞移植と、親族や、骨髄バンク、臍帯血バンクに登録されたドナーから移植を受ける同種造血幹細胞移植がある。

さらに、移植に用いる細胞の種類によつて3種類に分類され、ドナーの骨髄から採取した幹細胞を移植する骨髄移植のほか、骨髄から全身に流れ出た幹細胞を用いる末梢血幹細胞移植、へその緒や胎盤に含まれる臍帯血から幹細胞

胞を採取して用いる臍帯血移植があるという。

骨髄移植はドナーの負担が大きいのに対し、臍帯血移植は出産後に破棄されるへその緒や胎盤を使うため、ドナーの負担がない。早ければ1週間以内で臍帯血バンクから取り寄せられ、患者の病状に合わせた最善のタイミングで移植できるという。移植後にドナーのリンパ球が患者の体を攻撃してしまう「移植片対宿主病（GVHD）」になりにくいメリットもある。

一方、細胞数が少ないため体内に根付かず、再移植が必要になることも。飯野医師は「欠点はあるが、移植後に患者さんが元気に過ごせることが何より大事。GVHDの少なからず臍帯血移植は患者さんにとってやさしい治療法といえる」と話す。同病院は、移植後の治療に欠かせない無菌室を来春、1床から2床に増やす予定で、積極的に移植治療に取り組んでいく。

※第2、4木曜日に掲載します